



2023年3月期第1四半期決算説明資料



2022年7月27日

メタウォーター株式会社

<セグメント情報>

- プラントエンジニアリング事業(略語:PE事業):国内EPC事業、海外事業
当セグメントでは、浄水場内の浄水プロセス、下水処理場内の下水処理プロセス、汚泥処理プロセス、燃料化プロセスに使用する機械設備の設計・建設と、それらを運転、監視、制御するための電気設備の設計・建設を核とした各種エンジニアリングを主たる業務としています。
- サービスソリューション事業(略語:SS事業):国内O&M事業、国内PPP事業
当セグメントでは、浄水場、下水処理場、ごみ処理施設・リサイクル施設向けの機械設備や電気設備の補修工事、運転・維持管理(保守・点検)、運営などの各種サービスを主たる業務としています。

<語句説明>

EPC	Engineering, Procurement and Construction:設計・調達・建設
O&M	Operation and Maintenance:運転・維持管理
PPP	Public-Private Partnership(公民連携):公共サービスの提供に民間が参画する手法
PFI	Private Finance Initiative:公共施設の設計・建設、運転・維持管理、運営、資金調達に民間を活用する公共事業の手法
DBO	Design, Build and Operate:公共施設などの設計・建設、運転・維持管理に民間を活用する公共事業の手法
コンセッション	公共施設の所有権と事業経営の認可を公的機関に残したまま、民間企業に事業運営権を長期間にわたって付与する手法

I 2023年3月期第1四半期決算ハイライト

II 2023年3月期第1四半期決算概要

I 2023年3月期第1四半期決算ハイライト

II 2023年3月期第1四半期決算概要

'23/3期1Q 決算ハイライト（連結）

* 受注高

概ね前期並みに推移。

(参考)受注残高：'22/3期1Q末 1,910億円 ⇒ '23/3期1Q末 2,043億円(+132億円)

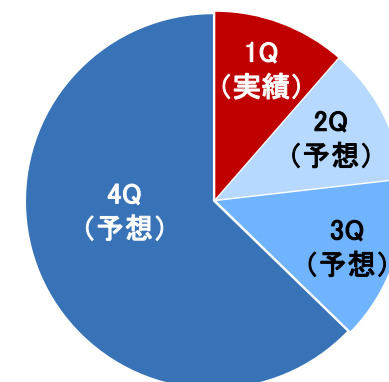
* 売上高・利益

当社グループの事業は、国内公共事業が大半を占め、売上・利益が4Qに著しく偏る傾向があり、例年1Qの売上高は年間の1割程度。

当1Qは、EPC事業、海外事業における北米子会社が順調に推移したほか、PPP事業において株式会社みずむすびマネジメントみやぎを連結したことなどにより、**売上高および各利益はともに前期を上回った。**

なお、経常利益には円安影響による為替差益664百万円を含む。

'23/3期四半期別売上構成



(億円)

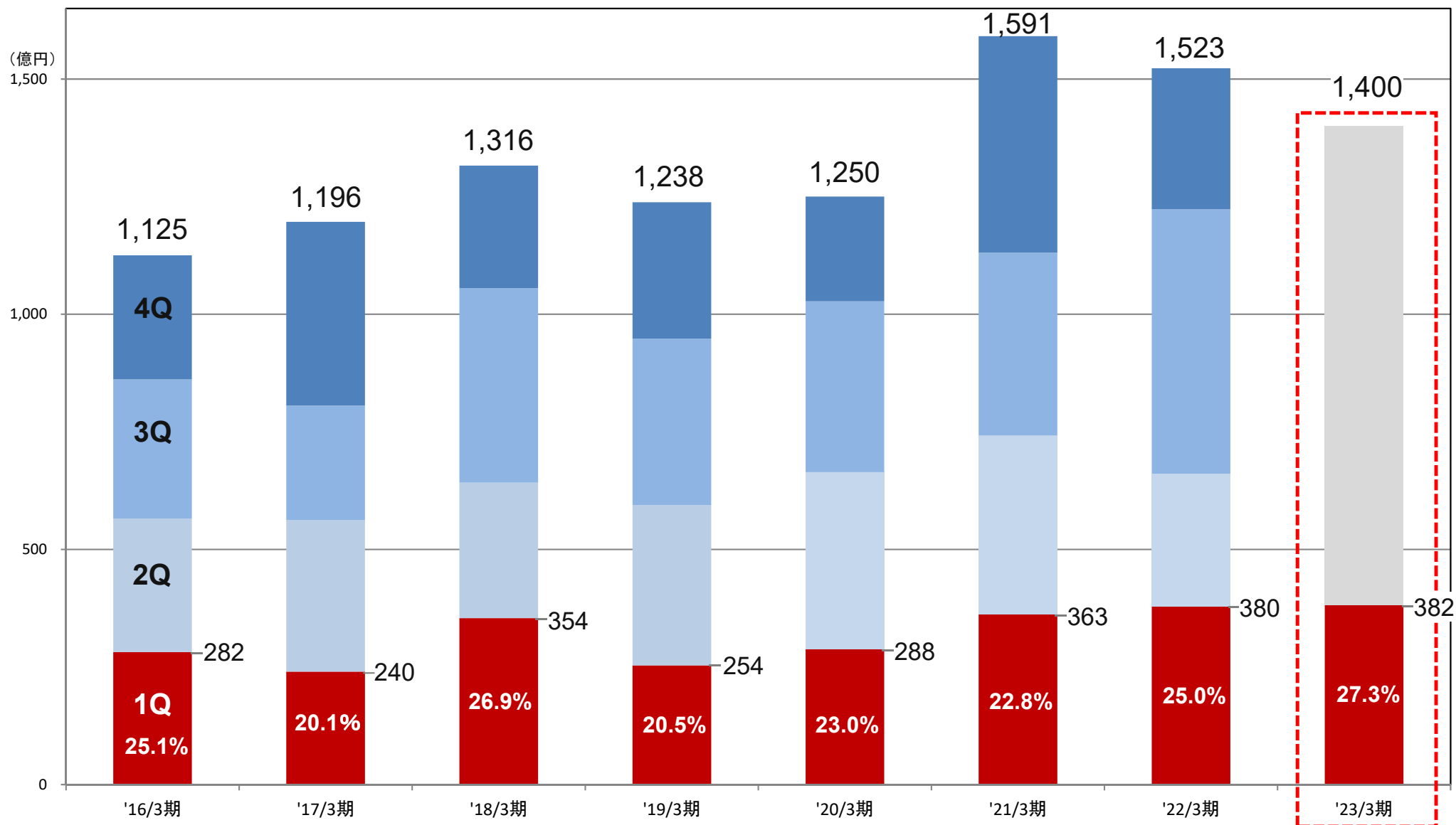
	受注高	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益	1株当たり配当金 (円)	
'23/3期 1Q実績	382	199	-19	-11	-10	-	
	前期比: +2 +0.6%	前期比: +40 +25.0%	前期比: +9	前期比: +16	前期比: +11	-	
'22/3期 1Q実績	380	159	-28	-27	-21	-	
'23/3期 予想*	1,400	1,490	93	93	63	第2四半期末	期末
('22.4.27公表)	前期比: ▲123 ▲8.1%	前期比: +134 +9.9%	前期比: +12 +14.2%	前期比: +5 +6.3%	前期比: +1 +0.9%	20	20

※10百万円単位を四捨五入(以降の実績値も同様)

'23/3期1Q 受注高推移（連結）

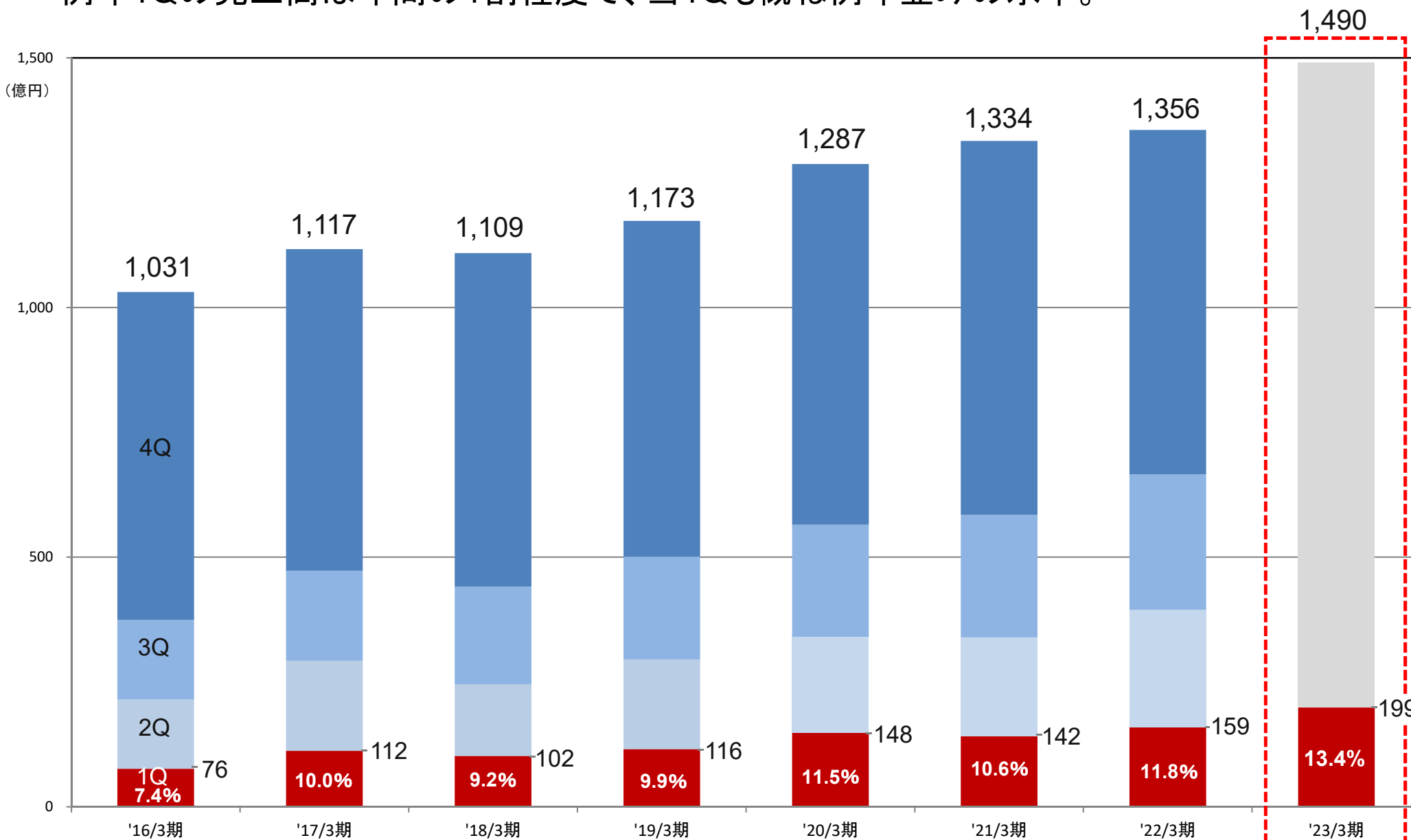
例年1Qの受注高は年間の20～25%前後で推移。

当1Qは例年の水準を若干上回るも、概ね予定通りの進捗。



'23/3期1Q 売上高推移（連結）

例年1Qの売上高は年間の1割程度で、当1Qも概ね例年並みの水準。



事業活動

* 宮城県上工下水一体官民連携運営事業(みやぎ型管理運営方式)がスタート(4月) ※ 詳細はP9

* 「サステナビリティに関する基本方針」を制定(4月)

参考:「アクアポニックスパークおおふなと」が完成(7月15日報道発表)

研究開発

* 令和元年度(平成31年度)に実施したB-DASHプロジェクト「単槽型硝化脱窒プロセスのICT・AI制御による高度処理技術」がガイドライン化(4月)

その他

* 下水道の大切さを紹介するオリジナル動画の最新版を自社ホームページにて公開(5月)

【お知らせ】「メタウォーターレポート2022」当社公式ホームページにて公開予定(8月1日)

宮城県上工下水一体官民連携運営事業がスタート



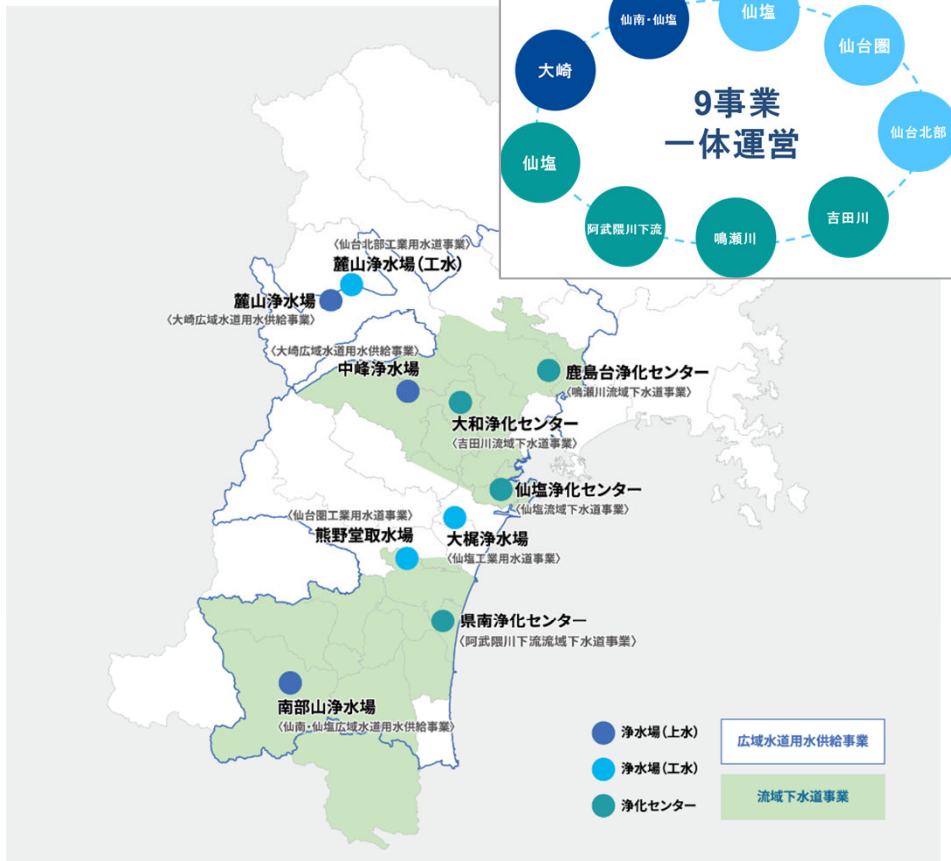
2022年4月1日、当社を代表企業とする特別目的会社「株式会社みずむすびマネジメントみやぎ」による、本事業がスタート。

国内初

水道、工業用水道、下水道を
一体的かつ長期的に管理運営

国内初

水道、工業用水道、下水道の
3事業一体コンセッション



運営を担う主な施設

水道



中峰浄水場
大崎広域水道用水供給事業
施設能力 約1.9万m³/日



南部山浄水場
仙南・仙塩広域水道用水供給事業
施設能力 約28万m³/日

水道



麓山浄水場
大崎広域水道用水供給事業
仙台北部工業用水道事業
施設能力 約8万m³/日(上水)
約6万m³/日(工水)

工業用水道

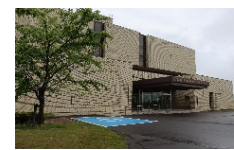


大槻浄水場
仙塩工業用水道事業
施設能力 約10万m³/日

下水道



仙塩浄化センター
仙塩流域下水道事業
施設能力 約22万m³/日(日最大)



県南浄化センター
阿武隈川下流域下水道事業
施設能力 約12.5万m³/日(日最大)



鹿島台浄化センター
鳴瀬川流域下水道事業
施設能力 約9千m³/日(日最大)



大和浄化センター
吉田川流域下水道事業
施設能力 約4.2万m³/日(日最大)



目次

I 2023年3月期第1四半期決算ハイライト

II 2023年3月期第1四半期決算概要

Ⅱ 2023年3月期第1四半期決算概要

1 連結損益計算書

2 セグメント別概況

3 連結貸借対照表

4 連結キャッシュ・フローの状況

連結損益計算書

(億円)

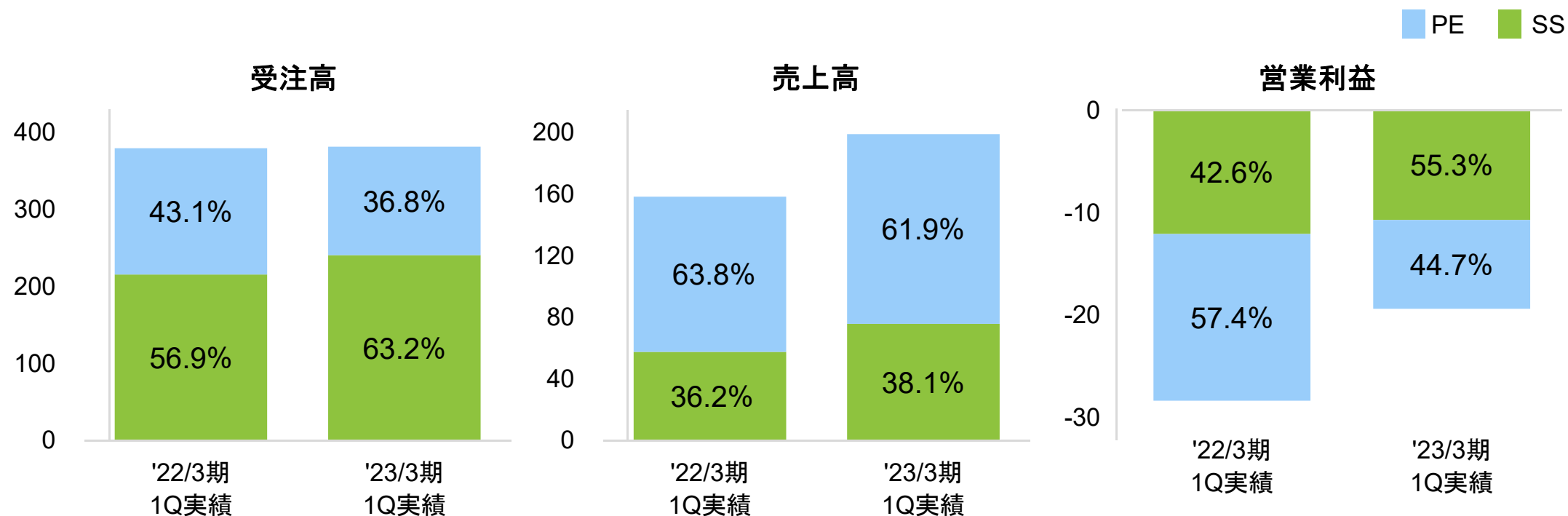
	'22/3期 1Q実績	'23/3期 1Q実績	増 減
売 上 高	159	199	+40
営 業 利 益	-28	-19	+9
(営 業 利 益 率)	-17.7%	-9.7%	+8.0%
経 常 利 益	-27	-11	+16
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-21	-10	+11

* 10百万円単位を四捨五入(以降の実績値も同様)

セグメント別概況（連結）

(億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	'22/3期 1Q実績	'23/3期 1Q実績	増減	'22/3期 1Q実績	'23/3期 1Q実績	増減	'22/3期 1Q実績	'23/3期 1Q実績	増減
プラントエンジニアリング事業	164	141	▲23	102	123	+22	-16	-9	+8
サービスソリューション事業	216	241	+25	58	76	+18	-12	-11	+1
合計	380	382	+2	159	199	+40	-28	-19	+9



セグメント別概況（連結）

（億円）

	受注高			売上高			営業利益		
	'22/3期 1Q実績	'23/3期 1Q実績	増減	'22/3期 1Q実績	'23/3期 1Q実績	増減	'22/3期 1Q実績	'23/3期 1Q実績	増減
プラントエンジニアリング事業	164	141	▲23	102	123	+22	-16	-9	+8
サービスソリューション事業	216	241	+25	58	76	+18	-12	-11	+1
合計	380	382	+2	159	199	+40	-28	-19	+9

プラントエンジニアリング事業

【受注高・受注残高】

受注高は、EPC事業の案件構成の違いから前期を下回った。
受注残高は、前期を98億円上回った。（'22/3期1Q末1,049億円 ⇒ '23/3期1Q末 1,148億円）

【売上高・営業利益】

・EPC事業は、売上高および営業利益ともに前期を上回った。
・海外事業は、北米子会社が順調に推移したことなどから、売上高および営業利益ともに前期を上回った。

サービスソリューション事業

【受注高・受注残高】

受注高は、O&M事業、PPP事業ともに前期を上回った。
受注残高は、前期を34億円上回った。（'22/3期1Q末 861億円 ⇒ '23/3期1Q末 895億円）

【売上高・営業利益】

・O&M事業は、売上高および営業利益ともに前期をやや下回った。
・PPP事業は、株式会社みずむすびマネジメントみやぎを連結したことなどにより売上高および営業利益ともに前期を上回った。

連結貸借対照表

(億円)

	'22/3期 期末実績	'23/3期 1Q末実績	増 減
現金・預金	213	490	+277
売上債権・契約資産	774	413	▲361
棚卸資産	80	108	+28
その他	23	32	+9
流動資産計	1,089	1,043	▲46
有形固定資産	45	48	+3
無形固定資産	105	109	+4
繰延税金資産	28	27	▲1
その他	63	65	+1
固定資産計	241	249	+7
総資産計	1,331	1,292	▲39

	'22/3期 期末実績	'23/3期 1Q末実績	増 減
買入債務	380	280	▲100
短期借入金 ^{*1} ₍₉₎	18	₍₉₎ 20	+2
契約負債	75	150	+75
その他	97	65	▲32
流動負債計	570	515	▲55
長期借入金 ^{*2} ₍₉₇₎	106	₍₁₁₆₎ 126	+20
その他	59	59	▲0
固定負債計	165	185	+20
負債計	735	700	▲35
純資産計	595	592	▲4
負債・純資産合計	1,331	1,292	▲39

*1 *2 : カッコ内の数値はPFI等プロジェクトファイナンス・ローンの金額

連結キャッシュ・フローの状況

(億円)

	'22/3期 1Q実績	'23/3期 1Q実績	増 減
現金・現金同等物の前期残高	180	206	+26
営業キャッシュ・フロー	272	276	+4
投資キャッシュ・フロー	-16	-10	+6
フリー・キャッシュ・フロー	257	266	+10
財務キャッシュ・フロー	-12	+11	+23
現金・現金同等物に係る 換算差額	0	0	0
現金・現金同等物の期末残高	424	483	+58

ディスクロージャーポリシー

1. 基本方針

当社グループは、企業理念に基づき、社会とともに持続的な発展を遂げるため、すべてのステークホルダーの皆様の期待にお応えし、社会から信頼され、社会に貢献し続ける企業グループを目指します。この考え方にのっとり、当社グループは、ステークホルダーの皆様や社会に対して当社グループに係る企業情報を公正・公平かつ適時・適切に開示するとともに、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションを図ることにより、当社グループに対する理解促進を図り、透明性・信頼性の高い経営に努めます。

2. 情報開示の基準

会社法、金融商品取引法などの諸法令および金融商品取引所の定める規則などにより開示が求められる企業情報について、それぞれの法令や規則などにのっとり、情報開示を行います。また、法令や規則などに該当しない企業情報であっても、ステークホルダーの皆様にも有用であると判断される情報や社会的に開示が必要と判断される情報について、可能な限り積極的に情報開示を行います。

3. 情報開示の方法

上記の法令や規則などにより開示が求められる企業情報については、それぞれの法令や規則などで定められた方法により情報開示を行うとともに、当社ホームページに掲載します。上記の法令や規則などに該当しない企業情報については、その重要性や緊急性を考慮し、報道機関や当社ホームページなどを通じて情報開示を行います。

4. 情報開示後のコミュニケーション

開示した情報に関して、会見、説明会、取材、問い合わせへの回答などを通じ、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションを図ります。また、コミュニケーションを通じてステークホルダーの皆様からいただいたご意見などは、当社グループ内で共有し、今後の参考とさせていただきます。

5. 沈黙期間

決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算（四半期決算を含む）期末日の翌日から決算発表までを沈黙期間とします。沈黙期間中は、業績予想の修正に関する情報開示を行った場合を除き、決算・業績見通しに関する会見、説明会、取材、問い合わせへの回答など差し控えます。

6. 将来の見通しについて

当社グループが開示する業績予想、戦略、目標などのうち将来の見通しに関する記述は、当社グループがその時点で入手している情報および合理的であると判断される一定の前提を根拠としており、実際の業績などは様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

7. 社内体制の整備

ディスクロージャーポリシーを遵守し、適切な情報開示およびステークホルダーの皆様とのコミュニケーションが図れるよう、社内体制を構築するとともに社内規程を整備します。



【本資料に関するお問い合わせ先】

メタウォーター株式会社 コーポレートコミュニケーション室 コーポレートコミュニケーション部

Tel:03-6853-7317 Fax:03-6853-8709 E-mail:pr@metawater.co.jp

補足資料 案件リスト

工事受注(10億円規模以上)

	案件名	都道府県	セグメント
1Q	芝原浄水場及び場外施設電気計装設備更新工事	福島県	PE